

コード No. 10281

**Anti-Human  
MBD3 (3A3) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

- はじめに : MBD3 (methyl-CpG binding domain protein 3)はメチル化 DNA 結合ドメイン (methylated DNA binding domain: MBD)を有するメチル化 CpG 結合タンパク質のファミリーに属する分子です。  
DNA 分子中のシトシンのメチル化は脊椎動物のゲノムを直接的に修飾する唯一の機構であり、DNA メチル化による転写抑制は種々の生命現象や疾患に関与すると考えられています。これらの MBD ファミリーやメチル化酵素が同定されており、その中で MBD3 はヒストン脱アセチル化酵素複合体の Mi-2/NuRD 複合体に含まれ MBD2 (methyl-CpG binding domain protein 2)を介してメチル化 DNA に結合すると報告されています(文献 1)。
- 免疫抗原 : Human MBD3 の C 端部分合成ペプチド (EELARDGEAPLDKAC)
- 精製方法 : マウス×マウス ハイブリドーマ  
(X63-Ag8.653×BALB/c マウス脾臓細胞、培養上清由来)
- クローン名 : 3A3
- サブクラス : IgG<sub>1</sub>
- 精製方法 : 抗原による特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05% NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8°C 保存 5 年間安定  
: 溶解後 -20°C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 約 0.1 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : MBD2 とは反応しません。(ウェスタン・ブロッティングにて確認)
- 文献 : 1. Zhang Y, Ng HH, Erdjument-Bromage H, Tempst P, Bird A, and Reinberg D. Analysis of the NuRD subunits reveals a histone deacetylase core complex and a connection with DNA methylation. Genes Dev. 13: 1924-35, 1999.